

特集

腸内細菌となかよく 生きて腸までとどく薬学管理

特集にあたって

整腸薬やプロバイオティクス食品が広く普及し、腸内環境が健康の維持・増進に重要であるという考え方が一般的なものとなるにつれて、腸内細菌は一般の人々にとっても身近な存在となってきた。薬局やドラッグストアなどで、患者さんから腸内細菌やプロバイオティクスについて相談を受けたことのある薬剤師の方も多いのではないだろうか。抗菌薬をはじめとして、プロトンポンプ阻害薬 (PPI) やメトホルミンなど、日常的に使用される薬剤のなかで、腸内細菌叢に影響を与えるものがある。また今後、腸内細菌についての研究が進展し、病院や薬局などにおける腸内細菌叢検査の普及なども期待されるなかで、薬剤師に腸内細菌の知識が求められる場面は増えていくと考えられる。

ヒトの腸内には数百種類、100兆個ほどの腸内細菌が生息している (腸内細菌叢)。腸内細菌叢は、ヒトが摂取した食物の一部を栄養源にすることで、腸内での生存を果たすとともに、生存過程で産生される菌体成分や代謝物を介してヒトの免疫系・代謝系・神経系などに作用し、宿主生理機能の向上に寄与している。また、腸内細菌叢は、薬剤や食事療法の効果にも影響を与える可能性が示唆されている。各腸内細菌は異なる菌体成分・代謝能を有しているため、腸内細菌叢の構成変化は、腸内の菌体成分や代謝物の組成を変動させ、その結果、宿主生理機能にも影

響を及ぼす。そのため、整腸薬やプロバイオティクスに関する知識に加え、腸内細菌の機能、腸内細菌叢に影響を与える因子についても、薬剤師としてしっかりと理解しておくことが重要である。

そこで本特集では、整腸薬の薬学的管理や食事指導、プロバイオティクス食品の適切な使用についての患者さんへのアドバイスなど、臨床ですぐに活かせる実践的な知識、そして今後薬剤師に必要とされるであろう、腸内細菌についての基礎知識から最新知見を両輪として企画した。薬剤業務に活かせる腸内細菌についてのQ & Aを冒頭に掲載し、各テーマについての詳細な内容を以降の各項目で解説いただく構成となっている。

本特集が薬剤師の方々にとって腸内細菌についてあらためて学ぶ機会となり、薬物療法だけでなく食事や生活習慣の改善などを通じて、患者さんの健康をサポートするきっかけとなれば幸いである。

北里大学薬学部 微生物学教室 教授

金 倫基